

# 喜怒哀楽

「喜怒哀楽」は、文芸を楽しむ方々の活力の源を目指し(株)ミュージズ・コーポレーション 喜怒哀楽書房が隔月発行している情報誌です。

12-1  
Vol.95

CONTENTS

- 笑顔礼讃西東
- 佐山組 (新潟県・新潟市) 2~3
- 金澤アイ (東京都・府中市) 4
- 詠み人スクランブル
- 《今年中にしておきたいことは何ですか?》 10~11
- 新潟ぶらり / ドナルド・キーン・センター柏崎(2) 12
- 詠み人の『リレーエッセイ』歌人 佐藤りえ 16



▲「生きていくうえで、かけがえないこと」

ここに響く言葉

新潟県糸魚川市出身の批評家・随筆家若松英輔氏の著書からここに響いた言葉を抜粋してご紹介します。

新しいことに挑戦する若者の雄姿に、人々は拍手を惜しまない。しかし、老年を生きる人々に同質の讃辞を送ることは、ほとんどない。だがおそらく、人間の生涯のなかでもっとも勇気を要するのは、老いの日々、老境なのではないだろうか。

—「生きていくうえで、かけがえないこと」より

●若松英輔

1968年生まれ、慶應義塾大学文学部仏文科卒業。  
2007年「越知保夫とその時代 求道の文学」にて第14回三田文学新人賞評論部門当選  
2016年「叢知の詩学 小林秀雄と井筒俊彦」にて第2回西脇順三郎学術賞を受賞。



温古知新 ④

「菜根譚」21

寒くなつてきましたね。そんなときは暖かいお部屋で「菜根譚」でもいかがでしょうか。

心、虚ならざるべからず。虚なれば則ち義理来たりて居る。心、実ならざるべからず。実なれば則ち物欲は入らず。

(心はいつでも空虚でなくてはならない。空虚になつていけば正論は自然とわかる。心はいつでも充実していなければならぬ。充実していれば、物欲など入る余地はない。)

「無」の心でいれば、余計なことは入らず真理がおのずから見えるようになるということ。

地の穢れたるは、多く物を生じ、水の清めるは、常に魚無し。故に君子は、当に垢を含み汚を納るるの量を在すべく、潔を好み独り行なうの操を持すべからず。

(見た目は悪くても肥沃な土地は沢山の作物が出来るが、綺麗すぎる水には魚は住まない。だから上に立つ者は、見た目に惑わされることの無いような度量が必要で、潔癖で独りよがりな心を持つてはならない。)

清濁あわせ飲むような広い心持でいてこそ、君子と呼べるのかもしれないね。

泛駕の馬も駆馳に就くべし。躍冶の金も終に型範に帰す。只一に優游して振わざれば、更ち終身の進歩無し。白沙云う、「人と為り多病なるは、未だ羞ずるに足らず、一生病無きは、是れ吾が憂いなり」と。真に確論なり。(馬車を転倒させるほどの暴れ馬でも扱える。扱い辛い金属も鋳型にはめられる。しかし、ブラブラしていている人間は扱い易いが、一生進歩しない。陳白砂(明代の儒者)が言った「生れながらに病弱なのを恥ずかしながら進歩しないが、生涯病氣知らずの方が心配だ」とは本当だ。)

問題があつても解決する力がある方が、人は進歩していけるということ。満ち足りすぎては進歩はないということですね。

人は只だ一念貪私なれば、便ち剛を銷して柔となし、智を塞ぎて昏となし、恩を変じて惨となし、潔を染めて汚となし、一生の人品を壞了す。故に古人は貪らざるを以て宝となせば、一世に度を越する所以なり。

(人間は欲張ると強みは弱みとなり、知恵は輝きを失い、優しさは残酷さに変わり、潔白は汚れ、品格は地に落ちてしまふ。だから、昔の人は、清貧こそ宝として一生を精進したので。)

欲張りすぎず、清貧であることが成功への道。

今回は79項までご紹介しました。人には寛容、自分に厳しく。心したいものですね。

(古川久美子)



# 佐山組

指導 川崎陽子様

(新潟県・新潟市)

去る一月一九日(日)、語呂合わせでは「いい一句の日」に、現役の歯科医川崎陽子さんが俳句の指導にあたられている「佐山組」にお邪魔しました。

十 十 十

先生のご自宅の居間を会場に行われるこの「佐山組」は、もっと俳句が上達したい！とこの会の設立を呼びかけた発起人の佐山さんの名を冠したものの。一般的な句会の進め方とは違い、各人が用意した俳句五句を先生が一句ずつ吟味し添削してくださいませ。「組長」こと、温和なニコニコ顔の佐山さんの挨拶に続き、愛犬ラブちゃんも同席して句会スタートです。

**水鉢の底に透けゆく散紅葉** 悦子

川崎：「透けゆく」ということは、水鉢の中の水がきれいだったということ？ 溶けていくように色がなくなっていく感じを詠みたかったわけね？ これでもいいんだけど、散紅葉を最初



▲お歳を聞いてびっくり！  
現役の歯科医川崎陽子さん

にもって来た方がきれいな色がパッと目に入り、読者にも景がよく見える。紅葉を見せて、散って水鉢の底にいたら、棲みついちゃったみたいな感じにもできるわね。

**散紅葉水鉢の底に棲みつけり** 悦子

石路の花四五十本の姦しき

川崎：数としてどうかしら。四、五十本と姦しいが結びつかなかった。

作者：正岡子規の「鶏頭の十四五本もありぬべし」の句を思い出し、じゃあ四、五十本にしようかと(笑)。

川崎：姦しき、で結論を言っちゃって。俳句は削って削って骨にして、読者が骨になったものに血管を通したり肉付けをしたりして、想像できる余地を残さなきゃ。結論を言ったら全くおもしろくない。何本とは言わずに、一面として、さらに感覚を飛ばしたら

「絨毯」なんて思い出さない？ そして黄色は当たり前だから、金色にしてみようか。

**金色の絨毯のごと石路の花**

そして、絨毯といえば「アラジンの魔法のランプ」。もっとイメージを飛ばして

**アラジンの絨毯のごと石路の花**

とかね。二千句くらいの選句をする時は、人が思いつかないようなドキッとするとする語句を最初にもってくる方法もある。そうすると選者は立ち止まる(笑)。

**一人居を秘かに誇る銀木屋** 周子

川崎：秘かに誇るは何をいいたいの？ 一人で一所懸命頑張っている自分を誉

めているのね。それだと独りよがりになるから、亡くなったご主人へのメッセージにしたら？

作者：もういいころ加減忘れちゃった(笑)。

川崎：あらそう？ 私は五年経つけど遺影に話すわ。「亡き夫に秘かに誇る銀木屋」ではどう？

作者：「亡き夫」を言いたくないんです。

川崎：じゃあ若い恋人にする(笑)？ 言いたくないことは書かない方がいい。じゃあ銀木屋だけを詠んで、去年と比較してみたら？ 「秘かに誇る」は少し理屈っぽい。さらっと詠んだ方が読者は深く読んでくれる。自分と合わせようと思うから難しくなる。二つのものを詠みたいけどどううまくいかないときは、原点に戻って簡単に考えると全く違った句になることもある。

**去年より今年のにほふ銀木屋**

**狛犬の爪尖りたる寒さかな** 武子

川崎：おもしろい句。これは白山神社？ 爪に目を付けたところがいい。

作者：片方は爪を隠しているしもう片方は爪を出していた。いろんな狛犬がいたが、指が三本だった。詠みたいと思ったのでよく見てきた。

川崎：それしたらその三本を入れようよ。

**狛犬の爪三本の寒さかな**

とすると、爪そのものが寒さを感じていた、しかも五本じゃなくて三本だからなお寒さを感じる、と受け取ることができ、おもしろみも出る。よく見てきたからこういう句ができる。



▲ダイニング兼リビングで和気あいあいと！

**父母のセピアの写真冬ぬくし** 武子

川崎：類想類句があるし「冬ぬくし」ともつきすぎ。遺品整理をする方に聞いた話では、整理の際に一番困るのは、写真で、その中でも始末されるのは、小さいしどこに写っているかわからない集合写真なんだとか。

**セピア色の集合写真雪催ひ**

**好きな花紫式部と柿の素** 治代

※柿の素：新潟県を中心に食されるうす紫色の食用菊。

川崎：「好きな花紫式部」まではわかるが、柿の素は食べるもの。

作者：柿の素は見てもきれいで食べてもおいしい！

川崎：八百屋さんの宣伝じゃないの(笑)。季語の並列はいい場合もあるが柿の素がちよっとね。紫式部を見て何



が見える？実？色？色であれば、紫  
じゃない色の花をもってきて並列にす  
る方法もある。花はいらない。

好きなのは紫式部と竜の玉  
とすれば三段切れも解消される。紫  
は高貴な色だから、下五を竜の玉とし  
て紫を重ねても作れる。高貴な治代さ  
んにぴったり(笑)！

柿紅葉空や絵の具に溶け込めり 節子

川崎：絵を描いているってこと？  
作者：度外視しては描けないくらいき  
れいな空の色だったということ、う  
まく詠めなかった。

川崎：柿紅葉と空とよくばりすぎだか  
ら、どちらかにしましょう。ここでは  
描いている人がいるわけで、その人が  
大人だとつまらないから「少年」に  
して、季語の柿紅葉を生かすなら、  
少年の絵に溶けてゆく柿紅葉

こうすると、絵の中に柿紅葉の色が  
溶け込んでいったという感じがでる。  
作者：素敵！

川崎：ちよっとおとき話みたいな感じ  
にもなるが、こういう句もいいんじや  
ない。

桐の葉をゆらす風くるちぎれ雲 弘子

川崎：これも一句の中に風と雲とよく  
ばっている。でも「ゆらす」を詠みた  
いわけだから風を消すわけにはいかな  
い。桐の葉を揺らすほどの風がきた、  
だけでいいのでは。ちぎれ雲はいらな  
い。

桐の葉をゆらすほどなる風のきて

川崎：これでもいい風じゃないとい  
うこと、でも桐の葉は結構大きいの

で、それなりの風だということがわか  
る。あれもこれも押し込もうとしない  
ようにね。

到来の酢橘のしぶき何にでも 智子

川崎：しぶきは酢橘を絞ったときの  
もの。「何にでも」が説明っぽい。こ  
れも酢橘のしぶきだけを詠んだ方が  
いいし、到来も必要性がない。「しぶ  
き」だと相当な量の感じがする。であ  
れば、もつと大げさにしたら？量も  
あつて遠くへも飛んでいくということ  
をオーバーにして

天空へ酢橘のしぶき飛びにけり

川崎：どうせだつたら、ええーっ!  
というくらいまで詠む。でもこれは私  
の感覚だからね(笑)。

秋高し恵比寿大黒テーブルに 勲

川崎：これは置物？  
メンバー：私、お酒を置いたのかと  
思った。  
作者：はい、置物です。お恥ずかしい  
話なのですが、今ちょうど競馬のシー  
ズンでテーブルに当たり馬券と一緒に  
置いたんです(笑)。

川崎：そうは受け取れないからね。恵  
比寿大黒っていうと、どうしても作り  
ものっていう感じがするからこれは止  
めて「当たりくじ」でどう？競馬は  
入れずに

秋高しテーブルに置く当たりくじ

で、いいんじゃない。喜びはわかる  
けど、恵比寿大黒は喜びすぎ。秋高し  
でうれしいことがあったに違いないと  
わかるから。一回読んですぐ意味がわ  
かることが大事。何回も読まないとい



▲初心者向けの先生の手作り教材

からない句は、どんなにいい句でもあ  
とまで残らないと言われている。素直  
に詠めれば一番いい。

その後は茶話会となるが、先生は初  
心者に説明する際に作った手作りの教  
材を出して「例えばバスに乗っていた  
としてね、そこから見える物、こと、  
状態、または過去や未来に飛んで連想  
したり、思いっきり空想をしたり!!」  
と、楽しそうに説明してくださる。

### 海近きバス停に立つ夏帽子

これで夏休みの子どもの景が見えて  
くるし、もつと飛躍すれば

### 入道雲行き 大きなバスに乗る

十七文字で無限の広がりを出せるの  
が、俳句のおもしろいところね。

のほほんと天に尻向け花梨の実 悦子  
雨上がり古庭に揺るる山紅葉 周子

制服の背ナ裏やかにタクトかな 武子  
冬山の最後の一滴フルーツティー 治代  
甲冑も瘦せてゆくなり菊人形 節子  
日の落ちて赤く染まりし大刈田 弘子  
鍋底に青きガスの火時雨来る 智子  
新米を囁んで活力もらひけり 勲

★「で、結局何がしたいの、この句  
で？」と作者と相対しながら、言いた  
いことをくみ取り、でもそれを言いた  
くないように省略したり、飛躍させた  
りしながら、見違える句に収れんさせ  
ていく。そのしばしの沈黙と、考えて  
いる先生の様子はあたたかも「巫女」の  
よう。そんな、句が生まれ変わる現場  
に立ち会えることをうれしく思うほ  
ど。皆さんも「本当に素敵なお句になっ  
た」「けちゃんけちゃん気分になる  
時もあるけど、先生に元気をもらえる  
からこの会が本当に楽しい」と口々  
に仰る。外は時雨模様の天気ながら、  
ホッとするとまだ二年目の「佐  
山組」でした。(木戸敦子)



▲句会の間も大人しく参加  
していたラブちゃん

# 金澤アイ様

## 『日々是好日』

(東京都・府中市)

本年三月、ご自身の来し方と俳句をまとめた自分史『日々是好日』を上梓した九五歳の金澤アイさんとお孫さんの古賀彩さんにお話を聞きしました。

**Q この本を出されようと思った経緯は？**

アイ：書くことは好きなので日記に書ききれないことなど、ノートに書いていた。彩が「おばあちゃん自身のことも書いてみたら？」と薦めてくれたが、自分のことを書くことは思わなかったので受け流していた。でも時々「小さいときこんなことがあったわ」と思い出しながら話すと、彩は「それでいい、それでいい！」って。ほんとに乗せ上手で、その調子で書いていたらこんなことに(笑)。

彩：幼少期の話は全く知らない時代の話で、写真を見てもまさに異世界。お



▲金澤アイさん(左)と孫の古賀彩さん

ばあちゃんにとっても母や私たち孫にとつても、これは残しておいた方がいいんじゃないかと思って。そんな時、ネットで調べて御社に問い合わせたら、本戸さんが自宅に来てくださった。

アイ：書き始めたからその気になって、デイサービスの先生にも「私自叙伝書いているんです」って伝えたら、行くたびに「もう書いたか」と聞かれるので「そんなに早くできるわけではないですよ」って。でも「できたらもっていい」って何度も(笑)。

**Q 本が完成した時は？**

アイ：それはうれしかったです！「これが私の本」と思って。誤字もあって校正も大変だったろうに、私の書いたことをこんなふうにも本にしてくれるんだと感激した。贈呈した友人たちは、書くだけであらう！と電話をくれたり、まだこんなこともあったよと話を聞かせてくださる方もいたり、写真に写っている方からは喜んでいただいたり。

彩：写真の選別が大変で、ちょっと欲張りすぎたかなと反省。表紙のデザインはコスモスを入れてこんな感じにしたいというおばあちゃんのリクエストがあった。題字も自分で書いて。題字と見返し(表紙の裏に貼り本文とつなぐ紙)をピンク色で提案していただき気に入っている。

**Q 日頃はどんな毎日？**

アイ：朝四時五〇分頃からラジオ深夜便の「誕生日の花」を聞いて一日が始まる。今は娘夫婦と同居しているので、朝食までに支度をして化粧をして、午後は日記を書いたり、韓国ドラマを見たり、ちょっと散歩をしたり、新聞



▲「自分を花にたとえるならコスモス」という思いを込めた著書『日々是好日』

や本を読んだり。本は大好きで、今のところ細かい文字も大丈夫。今読んでいる本も「おばあちゃん読んだらいいよ」って彩がくれたんです。壁にかかっている千羽鶴も「おもしろい折り紙があつたよ」と、家族みんなが国旗柄や花柄の折り紙を持ってきてくれるから折るのが追い付かず「もうよして」と(笑)。

彩：数独も叔父さんがインターネットからどっさり印刷してくれたから、毎日やっている(笑)。すごいなって思う。

**Q 皆さんが元気の源ですね**

アイ：動けるうちは動いていたい。病人らしくしてたんじゃ病人になっちゃう。母も亡くなるまできちんと着物を着ていた人だから、それが当たり前前にも思う。若い頃は歌舞伎やお芝居も好きだったし、勉強会で源氏物語も全巻読んだり、いろんな講座も受講した。でも今は今日も起きられた、ご飯を食べられた、自然に生きていくことで十分。自分が弱くなればなるほど人のことが心配。挑戦しようとか、勝とうとかは全くない。強いて言えば生きていくだけが挑戦かも。最後はボタンといけば一番簡単でいいし、そうありたい、いえそうなります！(笑)

★普通はもう行かなくなる八四歳から家族旅行をスタートし、ハワイではダ

イヤモンドヘッドにも登頂し、以来家族と国内外を旅行するアイさん。二年前のハワイ旅行では家族五人に、九三歳の誕生日を祝ってもらった。いとまごいをしよんとすると、ちょうどアイさん宛てにお友達からお電話が。小走りで受話器に駆け寄り、スリッパを脱いで畳の部屋で「もしもし、お元氣？」の明るい声。誰に対しても垣根なく、喋っていると穏やかな気持ちになるアイさんは、みんなの自慢のおばあちゃん。「なんでも大勢が好き」というアイさんの周りには、気にかけてくれる大勢の人がいる。(木戸敦子)



▲毎日びっしり記入している日記は時々々の新聞記事も貼付してある



▲娘夫婦、孫たちとワイキキビーチで(平成27年9月)



# 投稿作品

## 川柳

※誌面(都合上、300作品を超える投稿があった場合、掲載はお一人さま1作品、先着300名様までとさせていただきます。今回の投稿作品数は、267でした。  
※しめきり 2018年1月15日(月)まで ※作品は原稿どおりに掲載しております。

- 1 ライバルに礼を言いたいご焼香  
木村洋一(新潟県)
- 2 よく聞けば愚知りの陰でノロケてる  
細川光子(栃木県)
- 3 妖怪と素顔で遊ぶ唐辛子  
松田重信(埼玉県)
- 4 おしゃべりな近所が町のセキユリ  
丸山芳夫(東京都)
- 5 耳遠く小便近く口達者  
橋本世紀男(東京都)
- 6 訃報みて自分の歳とを比較す  
原 崇雄(埼玉県)
- 7 感動が老いの海馬を活性化  
小山恵美子(大阪府)
- 8 政治費味の素こんな旨味は外になし  
西條公雄(埼玉県)
- 9 空白も記録の一つ古日記  
鈴木義雄(福島県)
- 10 そっくりな声母さんと代ります  
石原 岳(群馬県)
- 11 オバサンを避けて痴漢が狙ってる  
山口千鶴子(東京都)
- 12 核持つで北鮮持つなどいじめつけ  
守屋高雄(岩手県)
- 13 朝寝して朝湯朝酒 秋うらら  
阿部 至(埼玉県)
- 14 石垣は孕むに任かず坊の跡  
濱田イサオ(福岡県)
- 15 政治費悪の根源即廃止  
内河邦久(東京都)
- 16 大マスク主治医の素顔見てみたい  
大久保アヤ子(東京都)
- 17 ファーストと叫べば勝てたもあつたげな  
草々(長野県)
- 18 新米は旨し新酒はなお旨し  
近藤富夫(東京都)
- 19 栗松茸つぎつぎ旬きて買いそびれ  
奥那於子(大阪府)
- 20 イケメンのタレントみんなうちの男子や  
佐伯セツ子(香川県)
- 21 ご一緒に暮らしましょうか老いの春  
青木日出男(群馬県)
- 22 政治家の就職活動総選挙  
山口静一(東京都)
- 23 老犬の長生き祈る初参り  
大橋絵代(千葉県)
- 24 外出は通院リハビリで埋まる  
木村誠一(神奈川県)
- 25 与野党のダルマ落しか悪足掻き  
齊藤安弘(神奈川県)
- 26 九十を過ぎて急くこと何もなし  
目黒豊光(福島県)
- 27 L・M・Sこれで大半分けられる  
和崎治人(山口県)
- 28 人生のカーブミラーを付け替える  
小林榮子(埼玉県)
- 29 横着をたまにはしたくなる加齢  
長谷川庄二郎(千葉県)
- 30 うれしいことあつたその日は若返える  
西山知子(岡山県)
- 31 冬囲い庭木冬眠木枯来  
久保壽雄(北海道)
- 32 イヤだねえ味も素つ気も無いおヒト  
佐藤朗々(東京都)
- 33 隣家訪い援護器具まで予約する  
菅井文男(新潟県)

## 俳句

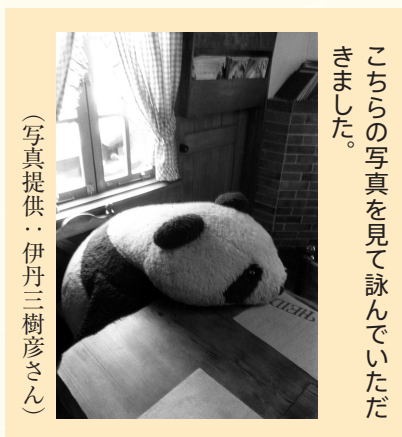
- 34 鯛雲のりて世界の街みたし  
檜山とり子(東京都)
- 35 柚子にらむ香りが朝を引いて来る  
緑川禎男(埼玉県)
- 36 腰痛の杖を購ひそぞろ寒  
松嶋光秋(東京都)
- 37 秋空と眸のまつすぐな園児たち  
林 克(福島県)
- 38 山姥の髪の乱れや鬼芒  
佐々木素風(新潟県)
- 39 今年米待つ子に送り安堵せり  
竹本芙美子(新潟県)
- 40 老ゆるとは手つかずの日日乱れ萩  
井原毬子(東京都)
- 41 旧友の柩車見送る鳴高音  
古谷 力(東京都)
- 42 禽声のひと際尖る霜の朝  
大谷 茂(埼玉県)
- 43 海別つ天の橋立小六月  
天野輝子(東京都)
- 44 晩秋の穂芒抱く月の影  
清まさじ(静岡県)
- 45 人生の九回表かなかなか  
佐野和彦(静岡県)
- 46 デブリ処理いつ終るやら蚯蚓鳴く  
黒澤正行(福島県)
- 47 秋澄むや一字一句に筆進む  
片山茂子(埼玉県)
- 48 敷島の鳴噫何と言ふ隙間風  
福岡 悟(東京都)
- 49 メリーウイドウ核実験の秋の夜  
安部 哲(新潟県)
- 50 懐手ところは別のポケットに  
村田吉雄(東京都)
- 51 山風に彩奏で合ふ秋桜  
杉原明子(静岡県)
- 52 行く電車見下す丘に立つ愁思  
田野井一夫(栃木県)
- 53 月今宵闇にかくれり豚餵食ぶ  
三津木俊幸(千葉県)
- 54 爽やかな口笛野外コンサート  
青木涼子(埼玉県)
- 55 下駄履いて拾銭握つた秋祭  
磯部 力(新潟県)
- 56 コスモスをしばらく抱いてから括る  
湯浅芳郎(岡山県)
- 57 曼珠沙華真紅に咲けり仏壇に  
水落重式(新潟県)
- 58 運動会泣いて笑うて声かれて  
川嶋法子(東京都)
- 59 山宿の秋を炊き込む自在鉤  
川口 襄(埼玉県)
- 60 卒寿今戦地を語る生身魂  
山崎吉晴(群馬県)
- 61 山粧う夕日差し込む客間かな  
田中恵美子(山形県)
- 62 藪枯らし蝶蜂達のカフェとなる  
白戸麻奈(東京都)
- 63 丈高き菩薩の裾に散紅葉  
小澤円梨(静岡県)
- 64 過去帖に沁みの残りし秋彼岸  
吉村充治(埼玉県)
- 65 青空と逆さ紅葉の水輪かな  
二瓶邦枝(埼玉県)
- 66 年取るってこういう事ね秋桜  
井田由利子(宮城県)
- 67 「さらさら…」と言ったばかりに秋選挙  
松尾らん(東京都)
- 68 鼻歌のサイクリングや秋桜  
宮崎敏昭(埼玉県)
- 69 捨て畑の人影消して泡立草  
中島光江(埼玉県)
- 70 書も茶菓も身近に置きて居間の秋  
日名子春実(群馬県)



- 71 恋人の愛試さるる肝だめし  
高崎登喜子(東京都)
- 72 金木犀誰かあるかと振り返る  
居原田暹(大阪府)
- 73 めん鶏を追ふをん鶏や鯛雲  
鈴木清子(埼玉県)
- 74 遠花火箸の先なる鯛の鯛  
小島岳青(新潟県)
- 75 追ふ落葉追はれる落葉つむじ風  
梶 鴻風(北海道)
- 76 石臼の日すがらまはる走り蕎麦  
関山恵一(神奈川県)
- 77 ダム底に赤とんぼ飛ぶ空がある  
杉村美保子(岩手県)
- 78 賜りし余生閑かや木の実雨  
岩村 昇(神奈川県)
- 79 爽涼の風をまとへる観世音  
高松玲子(埼玉県)
- 80 曲屋に馬無く久し木槿咲く  
井上静夫(栃木県)
- 81 かわらけの落つる彼方の秋模様  
宇都木安子(東京都)
- 82 流星や鹿の子絞りの帯締めて  
橋本良子(埼玉県)
- 83 金木犀目ざめの窓のシンフォニー  
堀木和子(大阪府)
- 84 老いてなほ少しの緊張天高し  
堅田秀子(東京都)
- 85 ランドセル二百十日も駆けて行く  
若月理依子(新潟県)
- 86 日本の秋しみじみと抹茶かな  
宮宅芳子(岡山県)
- 87 孝教授訪ぬる庭に式部の実  
津田忠彦(岡山県)
- 88 千社札見上げてくぐる初時雨  
中田文子(大阪府)
- 89 神木の千手を離れ銀杏の実  
大阿久雅子(埼玉県)
- 90 金木犀こぼれて匂ひ逃がしをり  
古川正栄(千葉県)
- 91 開け放し小春の恵み仏間にも  
長峰正晴(千葉県)
- 92 じいちゃんの英語わからず木の実落つ  
佐藤昌子(新潟県)
- 93 老ひとり開けずの雨戸金木犀  
藤井春三(埼玉県)
- 94 一村を彩るといふ柿熟る  
中嶋清子(佐賀県)
- 95 愛でし月・虫の音やさし誕生日  
柳澤京子(宮城県)
- 96 被曝地と押されし烙印震災忌  
有坂馨園(福島県)
- 97 雨あがり濃き山々の雲去りて  
長谷部喜代子(大阪府)
- 98 鬼胡桃リハビリ長の握る音  
本庄準也(埼玉県)
- 99 共に泣き共に笑つて秋遍路  
大塚徳子(埼玉県)
- 100 火花果て一湾月のものとなり  
金子範子(高知県)
- 101 盆僧が妻との会話長いこと  
岩崎政弘(岡山県)
- 102 住職もしばし見とるる寺紅葉  
小林七重(新潟県)
- 103 胃カメラに写るわが腑や黄落期  
田中 昶(鳥取県)
- 104 月光の落ちし寝間より独り言  
浦橋渴雪(兵庫県)
- 105 十六夜の月を静かに一人愛で  
道給一恵(埼玉県)
- 106 花かつを踊る蛸焼小鳥来る  
吉里ひとみ(東京都)
- 107 寒風に強き絆の道祖神  
松前邦広(千葉県)
- 108 ほろ酔うてつれて帰るや望の月  
近藤薫也(千葉県)
- 109 秋天の青沁みるほど九十路旅  
阿部徳夫(宮城県)
- 110 訪ふ女もなくひぐらしの潜り門  
上村元義(神奈川県)
- 111 人住まぬ家に色濃き彼岸花  
井上氣海(広島県)
- 112 豊の秋信じて蒔いたに又も雨  
菅原キイ子(宮城県)
- 113 茜雲映る瓢湖や雁来たる  
大橋恒次(新潟県)
- 114 乱れ舞う鷺草の群れ風涼し  
斎藤博洋(秋田県)
- 115 山水の山並み晴れて天高し  
小林春雪(新潟県)
- 116 この角を曲がればあした秋夕焼  
九法活恵(埼玉県)
- 117 狒犬の目許にしずく紅葉雨  
神 一男(静岡県)
- 118 眼下より上ほる巨月独り占め  
中岡宗治(三重県)
- 119 手間隙をかけし一椀菊膳  
寺内 侖(埼玉県)
- 120 秋の野に子供の頃を捨てて来る  
岩田 信(神奈川県)
- 121 多摩川のダムの魚道や下り鮎  
津布久信雄(東京都)
- 122 鳥海山の飛び立つ構へ豊の秋  
一瀬正子(埼玉県)
- 123 稲穂波里を明るく染めにけり  
鏡たか子(山形県)
- 124 ぼつねんとああぼつねんと秋一日  
服部八重子(東京都)
- 125 光彩の限りを放つ銀杏かな  
堀田寿美子(北海道)
- 126 デバ地下の出口入り口十二月  
喜龍けん(滋賀県)
- 127 布団かぶせ寝たふりをして家を出る  
早乙女文子(埼玉県)
- 128 ふるさとを引き寄せているぬかご飯  
山崎鶴恵(鹿児島県)
- 129 鯛や茶碗飾りの銘になり  
中山日出子(大阪府)
- 130 文机に新書の匂い夜の秋  
岡村君枝(茨城県)
- 131 捨案山子へのへのもへじ睨みおる  
中村康浩(福岡県)
- 132 萩の花散りしく道を歩みけり  
青木ケン子(埼玉県)
- 133 老いて出るお国訛やちゃんちゃんこ  
村山徳英(埼玉県)
- 134 百歳の山頂見たし八十の春  
仁藤ひろじ(埼玉県)
- 135 秋暑しピアスの揺れる彼の耳  
星 一子(神奈川県)
- 136 夕焼けに影絵となりて姉いもと  
本間 進(新潟県)
- 137 会ひたくてまた読む手紙夜の長し  
本間ミネ(新潟県)
- 138 小春日や新聞ひろげ居眠りす  
平林義康(兵庫県)
- 139 竹箒掻き回したる鱗雲  
白川 博(新潟県)
- 140 一灯を残し夜長の文を書く  
重原爽美(新潟県)
- 141 鶴見てゐる「だるまさんがころんだ」  
光成高志(千葉県)
- 142 納得の死があるのかな文化の日  
中野勝子(鹿児島県)
- 143 満月やお伽噺の始まりぬ  
山口嘉子(三重県)
- 144 読みかけの本を出して秋ふかむ  
宇田川正雄(埼玉県)

## 短歌

- 145 川の秋鶴匠あごひげこゑのもれ  
北野耕兵(千葉県)
- 146 白鳥の水引き連れて泳ぐなり  
今井勝子(新潟県)
- 147 冬ざれや試練生きぬく朱鷺のゐて  
中川義彦(新潟県)
- 148 こぼれ萩灯らぬ家の石たたみ  
柴田恵美子(北海道)
- 149 庭下駄にまとひつきたる秋の声  
大窪美代子(大阪府)
- 150 降り明かす蕊にもぐるも秋の蜂  
駒場京子(神奈川県)
- 151 神在月お目通りして句の世界  
黒岩正子(埼玉県)
- 152 三婆と言われて姉妹の小正月  
池田 岬(埼玉県)
- 153 おもむろにマスク外して吐く本音  
望月哲土(東京都)
- 154 柚子湯にはツイツイと泳ぐネ  
ズミ 白木和子(東京都)
- 155 角が抜け老いし狒犬冬紅葉  
清水君江(埼玉県)
- 156 冬の夜や妻の寝息に安堵する  
浅野信廣(宮城県)
- 157 垣根より垂るる莖や実紫  
間森 坦(兵庫県)
- 158 独り居の況して夜寒の身に沁みて  
大内泰子(東京都)
- 159 積める書にうす埃のる冬隣  
野木宗信(奈良県)
- 160 門前に焼菓子香る神の留守  
安田芳江(茨城県)
- 161 幼いころの顔を浮かべて賀状書く  
若林卓宣(三重県)
- 162 車窓いま釣瓶落しの大坂湾  
沖 惇子(大阪府)
- 163 高い樹を伐ってさつぱり庭を見る  
浅海和代(東京都)
- 164 見ゆるもの自在に詠みたし富士左  
江の島過ぎて鎌倉に着く  
土屋喜雄(山梨県)
- 165 キジバトは松を残してスズメらの  
ねぐらを守るジジを怖れず(※俺の  
鳴声) 早坂絃司(北海道)
- 166 しみじみと古きノートをめくりつ、  
短歌は心の足跡と知る  
北澤実夫(東京都)
- 167 モンゴルの命のしらべ馬頭琴秋の  
雨降る赤坂の夕べ  
山田良男(埼玉県)
- 168 人形はわれの身代り病など浄め浄  
めて湖に流さる  
内藤明子(東京都)
- 169 疾走する騎乗の少年弓を引く伝統  
行事流鏑馬見たり  
濱崎祥子(鹿児島県)
- 170 広がれる葉蔭に開く紅蓮の香ま  
と かつゆらりと揺れる  
関原幸子(東京都)
- 171 「朝ですよ」携帯目覚し亡母の声  
「起きろ起きろ」は亡父の声  
阿部澄江(宮城県)
- 172 更衣亡母の明治を三十年形見の衣  
にたたみ直して  
寒川靖子(香川県)
- 173 屋根ほどの金木犀がにおい立ち共  
に齢をひとつ重ねる  
竹田満美子(静岡県)
- 174 思い出は日々深まりて老いてゆく  
身の支えとも日記にしるす  
渡部美代子(山形県)
- 175 秋口の気圧変動大めまい半月体調  
くずして寝込む  
高須 孝(愛知県)
- 176 孫達と共に祝いの敬老日嫁から孫  
から宝が届く 峯岸信子(東京都)
- 177 グループを作りて会話のはずむな  
り待合時の開演間近  
高橋登志子(新潟県)
- 178 金木犀つぼみかすかに開き初め香  
り入りくる朝の窓より  
桑原謙一(群馬県)
- 179 甲斐の里真澄の空に子と夫と先祖  
の墓に香をたむける  
中沢敬子(千葉県)
- 180 揃いたる四人姉妹は皆八十路孕寿  
で逝きし母懐かしぶ  
田中豊恵(新潟県)
- 181 放浪をこうもり傘で象徴する美  
子の像はしゃがみて居りぬ  
久本にい地(岡山県)
- 182 Eメールよりも友の字温かく秋は  
紅葉の絵てがみ届く  
坂元正憲(東京都)
- 183 五十年のふたたび出合うラブソデー  
友と詠うは喜怒哀楽へ  
大鳥居牧子(東京都)
- 184 まだ何かやっておくことあるよう  
な師走の闇に除夜の鐘の音  
合田浩子(茨城県)
- 185 進次郎総理とよばれるその日まで  
生きてやるぞとミーハーな喜寿  
岩崎令子(大阪府)
- 186 この道やすてきな韻き白秋子供の  
心絵のような歌  
五味田幸夫(東京都)
- 187 幼子は背負いしリュックぴよこぴよこ  
と弾ませながらスキップして行く  
早坂保文(宮城県)
- 188 立冬の暗いうちからウォーキング  
朝日が昇って体感あつく  
新井 賢(埼玉県)
- 189 初時雨紅刷く山を慕いつつ過ぎて  
淡き虹たちぬ  
島田實貴男(群馬県)
- 190 落日の櫓田に群れ立つ鳥の背のぬ  
くもりを明日も願いて  
小川 暘(大阪府)
- 191 温かそう僕もベッドで寝てみたい  
檜山とり子(東京都)
- 192 香香に友好の風吹く季節  
松田重信(埼玉県)
- 193 ぬいぐるみのパンダ疲れし夏の果  
ない 井原穂子(東京都)
- 194 つかれたなあ生れて生きるも楽じゃ  
ない 石尾曠師朗(東京都)
- 195 次の世はパンダに生まれ変わりたい  
橋本世紀男(東京都)
- 196 窓を背にパンダの玩具日向ほこ  
天野輝子(東京都)
- 197 香香のしぐさかわいぬいぐるみ  
小山恵美子(大阪府)
- 198 窓の陽にパンダねむりて秋の昼  
清まさじ(静岡県)
- 199 パンダにも至福の時や昼寝して  
佐野和彦(静岡県)

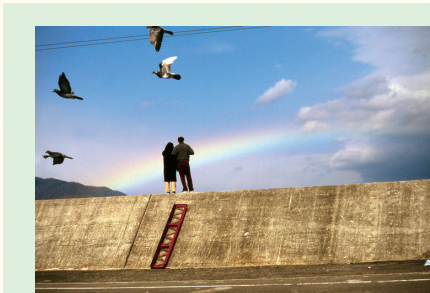


## フォトイック

こちらの写真を見て詠んでいただき  
ました。



- 200 パンダ似と擬ふ耳にも冬近し  
千代田栄次(東京都)
- 201 冬日射留守番をするぬひぐるみ  
片山茂子(埼玉県)
- 202 みきひこのネガにうつつの日向ぼこ  
福岡 悟(東京都)
- 203 アルバイトなくて着ぐるみたればんだ  
赤塚行々子(新潟県)
- 204 シャンシャンにふてくされてるぬいぐるみ  
石原 岳(群馬県)
- 205 こたつにあごのせてうつつほとりなりけり  
安部 哲(新潟県)
- 206 友達も遊び疲れし昼寝かな  
三津木俊幸(千葉県)
- 207 昼下がりおっとりしてパンダかな  
富樫和子(山形県)
- 208 冬迎えソファーにパンダうれしかり  
水落重武(新潟県)
- 209 生返事何時のまにやら夢の中  
川嶋法子(東京都)
- 210 午後三時パンダも疲れ昼寝する  
山崎吉晴(群馬県)
- 211 眠気さすパンダの背ナに冬日あり  
小澤円梨(静岡県)
- 212 わが名前募集中のパンダかな  
山田楽山(埼玉県)
- 213 シャンシャンの仕草がうれし秋うらら  
日名子春実(群馬県)
- 214 留守番も飽きてこころで大昼寝  
高崎登喜子(東京都)
- 215 平和特使パンダ顔見せ秋暮るる  
居原田暹(大阪府)
- 216 月の出を見ずに迎えし朝かな  
有田裕子(北海道)
- 217 秋日和机に顎のせパンダ睡り  
梶 鴻風(北海道)
- 218 夢じゃないパンダこたつで冬眠中  
奥那於子(大阪府)
- 219 香香は上野ボクのふる里はどこだろう?  
濱崎祥子(鹿児島県)
- 220 人寄せはもう疲れたとひと眠り  
関原幸子(東京都)
- 221 人気あり過ぎ困ったものだくたびれた  
岩村 昇(神奈川県)
- 222 ボクだって喜怒哀楽もうつもある  
宇都木安子(東京都)
- 223 脱走は成功ほつと昼寝する  
紺谷睡花(東京都)
- 224 秋日うとうときつとわたしも縫ひぐるみ  
鈴木岑夫(千葉県)
- 225 もうすこし寝かせて下さい赤のまま  
橋本良子(埼玉県)
- 226 天高し故国の夢を見る窓辺  
堀木和子(大阪府)
- 227 お母さん私を一人にしないでよ  
阿部澄江(宮城県)
- 228 初パンダテレビ追った娘四十路なか  
佐伯セツ子(香川県)
- 229 香香に肖る上野年の市  
大阿久雅子(埼玉県)
- 230 秋の夜やぐつたり疲れ人気者  
坪田勝秀(鹿児島県)
- 231 悩んでも朝日は昇るケ・セラセラ  
青木日出男(群馬県)
- 232 遊び相手待つ間も眠し小春の日  
長峰正晴(千葉県)
- 233 昼寝覚め大きなパンダあせんとす  
藤井春三(埼玉県)
- 234 愛猫に似ているパンダ白と黒  
柳澤京子(宮城県)
- 235 ありがとう素敵名前前待ってます  
鈴木蝶次(宮城県)
- 236 留守番のベッドで手足伸ばしけり  
本庄準也(埼玉県)
- 237 きもち良くパンダの赤ちゃんおひるねね  
渡部美代子(山形県)
- 238 人気者パンダ疲れて夢の中  
松前邦広(千葉県)
- 239 香香よ遊び疲れし年の暮  
近藤薫也(千葉県)
- 240 「ご飯まだ」おなかペコペコ悲しいよ  
阿部徳夫(宮城県)
- 241 よく遊び日々に大きくなるパンダ  
高橋登志子(新潟県)
- 242 歩き過ぎ背の西日に菊香り  
菅原キイ子(宮城県)
- 243 待ちぼうけ冬日の中のひとりごと  
九法活恵(埼玉県)
- 244 晩秋の窓辺の日差し心地好し  
田中豊恵(新潟県)
- 245 カーテンを開き秋日に深呼吸  
神 一男(静岡県)
- 246 背の温み何も要らずに日向ぼこ  
寺内 信(埼玉県)
- 247 香香よもう起きなよとママが呼ぶ  
齊藤安弘(神奈川県)
- 248 陽光に謝謝しているパンダの昼寝  
和崎治人(山口県)
- 249 冬眠か春眠ですかパンダさん  
鏡たか子(山形県)
- 250 人気者パンダの代役アー眠い  
合田浩子(茨城県)
- 251 シャンシャンとは良き名付けられパンダの子  
岡村君枝(茨城県)
- 252 叶うなら大きな限を治したい  
小林榮子(埼玉県)
- 253 独りぼち夢の中では香香に  
岩崎令子(大阪府)
- 254 背を丸め寒がりパンダこたつ番  
中林恵子(大阪府)
- 255 僕ちゃんに名前つけてよお願い  
仁藤ひろじ(埼玉県)
- 256 うたたねは気持ちいいお炬燵大好き  
星 一子(神奈川県)



俳句・川柳募集!!

(写真提供：中川三郎さん)

右の写真から、自由にイメージし五七五(俳句か川柳)で表現してください。応募はアンケートハガキ投稿欄にて。お待ちしております!

- 257 ぬいぐるみのパンダを抱いて日向ぼこ  
中野勝子(鹿児島県)
- 258 まさ夢かシャンシャンやかくれんぼ  
五味田幸夫(東京都)
- 259 冬めくや蘇州夢見のパンダかな  
倉沢ひとみ(静岡県)
- 260 僕パンダなまけものではありません  
長谷川庄二郎(千葉県)
- 261 シャンシャンがつかまり立ちができました  
西山知子(岡山県)
- 262 小春日を背ナにパンダのひと休み  
大窪美代子(大阪府)
- 263 ふんわりとパンダの動き鳥渡る  
黒岩正子(埼玉県)
- 264 平和とはこんなことだよネ・トランブくん  
菅井文男(新潟県)
- 265 里帰りしたいな孫の顔見せに  
安田芳江(茨城県)
- 266 小春日や待ちびと来ずにととうと  
小川 陽(大阪府)
- 267 ねむいのかゆつくりお休みパンダくん  
浅海和代(東京都)





「投稿作品で心に残ったものは？」の問いに、たくさんの回答をお寄せ頂きありがとうございました！その中で特に多くの評価を集めた作品と、それを選んだ理由の一部をご紹介します。  
※大賞と自句自解コーナーは年1回です。

◎俳句部門  
2 倅せは友多きことデラウエア

天野輝子(東京都)

・デラウエアは米国の州名ですが日本人はブドウの品種がすぐに頭に浮かぶと思います。わかりやすくインパクトがあります。赤塚五行(新潟県)・類句がなさそうです。友多きとデラウエアの粒がかさなり倅せな句になりました稲葉民雄(千葉県)・季語の「デラウエア」のとりあわせがいいですね 梶 鴻風(北海道)・友の多きは、出合いがあつて話し、声が出せるから 松尾正一(岩手県)・倅せは友多きこと、友達は金ではかえませんが、季語がしゃべっている 中野勝子(鹿児島県)

55 差し当り今が幸せ初さんま

高崎登喜子(東京都)

・人生今が幸せと言えるときが一番いい。こんな小さな幸せを積み重ねていきたい 長峰正晴(千葉県)・無欲で生きていく様が見える。同感です 金子範子(高知県)・幸せの原点ここにあります。初さんまが効いていますね 小林七重(新潟県)・肥ののつた大ぶりのサンマは手に入りにくいが今年もサンマを食べられる幸せ 桑原謙一(群馬県)・この方の生き方が好き 服部八重子(東京都)

109 戦傷残る卒寿の更衣

夏井寛治(新潟県)

・お国のために負傷されて迎えた卒寿の更衣をされた作者の心情がひしひしと伝わってくる作品に感銘することしきりです 大谷 茂(埼玉県)・戦場の

人も少なくなつた今日、九十才で元気に更衣する先輩にいつまでもお達者でと声を掛けたい 山崎吉晴(群馬県)・戦傷は戦線いくさせんで負傷され帰還したのか。九十歳になられて今も病むものだろうか。お大事にと言いたい 紺谷睡花(東京都)・再び戦火の匂ひそこかしこ、平和こそ大事 坪田勝秀(鹿児島県)・戦場に行つた方も卒寿、傷は身体にも心にも。戦争を知らない人が多数の日本、平和でこそ文芸も：

安田芳江(茨城県)

◎短歌部門

153 空にあり美しき雲野辺にあり清き草

花混濁の世に 北澤実夫(東京都)

・日々の新聞テレビ等の報道に心痛める日々ですが自然は変わらず美しいことは何よりの救いです。後の世に残せるよう守りたい 堀木和子(大阪府)・大自然あつての混濁の世の中では、心も体も大切に守つて行かなければ 高橋登志子(新潟県)・多忙な生活の中。世界の出来事に心が痛む日々。旅に出る機会に恵まれた時空の雲、雨後の山にかかる雲、野辺の野菊に癒されます 峯岸信子(東京都)

163 大原港丁度出くわす満月に家族揃

いて宴となりぬ 峯岸信子(東京都)

・満月の夜の宴の歌、上の句の「丁度出くわす」の表現がよい。予期せぬ感情がこめられている 山田楽山(埼玉県)・旅の夜でしょうか。良かったですね。さぞふり向きながら帰られて又後々の語り草となるでしょう 佐伯セツ子(香川県)

◎川柳部門

185 記憶力悪い人ほど偉くなり

橋本世紀男(東京都)

・都合に依つて記憶を無くしたり戻したり便利な人が多いですね 細川光子(栃木県)・国会答弁が目にかぶ 佐野和彦(静岡県)・昔ロッキード裁判のころ偉い人が「記憶にございませぬ」と言っていた。これが流行語になった 石原 岳(群馬県)・記憶力以上に大切な力がある 阿部 至(埼玉県)・森友、加計学園問題にかかわる国会の審議をテレビで視聴するとこの句になる 久本にい地(岡山県)・「憶えてない」「忘れた」「記録が無い」などと言っていた政府高官がいました。世相を捻つた句想が面白い川柳です 長谷川庄二郎(千葉県)

177 宿題を見兼ねて親が休暇とり

石原 岳(群馬県)

・夏休みの宿題であろうか？ 濱田イサオ(福岡県)・昔、手芸の作品のパジャマ、母に大半、手伝ってもらつた記憶がよみがえりました。今も昔も同じですね!! 阿部澄江(宮城県)・諧謔感があり共感 望月哲士(東京都)

184 つながりは年一回の年賀状

守屋高雄(岩手県)

・私にも年賀状だけつながっている人がいます。それでもいいかなと色々思つて出しています 小山恵美子(大阪府)・つながりがよい。ほんとうにこの句の通りです 大久保アヤ子(東京都)・老境に入ると昔の友人とのつ

ながりが次第にうすれていくのが寂しいものだ 近藤富夫(東京都)

◎フォトイック



251 三樹彦さん尚も健在うれしうれし

萬濃その子(神奈川県)

・97才の俳人の健かき 内河邦久(東京都)・青木日出男(群馬県)

◎他にも

12 終戦日世界平和の遠さかな

井上静夫(栃木県)

22 背きし父泣かせし母の墓洗ふ

黒澤正行(福島県)

25 秋深し静かに混みし美術館

村田吉雄(東京都)

88 うなぎの日半分づつで足る齡

鷺谷浅子(茨城県)

122 隅々を稲刈る婆の小さき背

本間ミネ(新潟県)

167 たくましく育つ稲穂に吹く風の何を語るやふれあいゆらぐ

高橋トシ子(新潟県)

182 銭湯で背中を流してくれる富士

長谷川庄二郎(千葉県)

196 忘れん坊將軍にならずなれる

丸山芳夫(東京都)

※今後もふるつてご投稿をお願いいたします！

Q 前回のアンケート  
今年中にしておきたい  
ことは何ですか？

★句、歌、原稿の整理

- ・俳句の整理 古谷 力(東京都)
- ・俳句の整理と「句集」の発行 橋本世紀男(東京都)
- ・喜怒哀楽に出した、俳句、短歌、川柳の整理(パソコンに入れる) 濱田イサオ(福岡県)
- ・新聞に投句したものや句会でのそれらを取捨選択したい 紺谷睡花(東京都)
- ・今年一年の投稿の整理 岩崎政弘(岡山県)
- ・この一年に作った句を整理して「句集・赤樫第7集」にまとめ写真、イラストもはめこむ 齊藤安弘(神奈川県)
- ・メモ書きしている五・七・五の作句をなんとか整理したい 和崎治人(山口県)
- ・ささやかな人生の備忘録、来春までに整理したいと希っています… 村山徳英(埼玉県)
- ・年間の句の選 光成高志(千葉県)
- ・俳句短歌川柳をまとめて歌集にしたいと思っています 五味田幸夫(東京都)
- ・五年前に歩いた「おくのほそ道」のエッセイを少し整理してまとめたい 望月哲土(東京都)
- ・数々の句報・会報の断捨離 佐藤朗々(東京都)

★家、部屋の整理

- ・家中の不用品 稲葉民雄(千葉県)
- ・タンス、机、鏡台の中 井田由利子(宮城県)
- ・土蔵整理 大場卯月(長野県)
- ・書斎の整理 梶 鴻風(北海道)
- ・自室の物品や、切り抜き紙の整理 松尾正一(岩手県)
- ・不用品の処分等 田中 昶(鳥取県)
- ・雑然とした書斎の整理整頓 近藤薫也(千葉県)
- ・食器の整理、セットの器は二枚だけ残して処分しています 中山日出子(大阪府)
- ・障子貼り 佐藤昌子(新潟県)
- ・孫が破いた障子の張り替え 目黒豊光(福島県)

★本の整理

- ・本をはじめ身の回り品の整理(妻に厳令されている) 石尾曠師朗(東京都)
- ・積ん読を少しずつ片づけること 阿部 至(埼玉県)
- ・蔵書整理 湯浅芳郎(岡山県)
- ・今年一年買った雑誌 山崎吉晴(群馬県)
- ・「床が抜けます」と注意された本の整理と処分 内藤明子(東京都)
- ・今年買った本を全部読むこと 山田楽山(埼玉県)
- ・同人誌と本棚の整理。思い入れが強くなかなか断捨離が出来ません 大阿久雅子(埼玉県)
- ・読み返すことはないと思われる本の整理 有島和子(東京都)
- ・句誌など本の整理 白木和子(東京都)

★終活、エンディングノート



- ・遺言書の作成 松嶋光秋(東京都)
- ・エンディングノートを90%ぐらい仕上げたい！100%はもう少し先に！ 井原穂子(東京都)
- ・終活だボケないうちに覚え書き 守屋高雄(岩手県)
- ・エンディングノートを書くこと 関山恵一(神奈川県)
- ・エンディングノートの見直しと訂正など 堀木和子(大阪府)
- ・いつ読むかわからないが孫への遺言 中岡宗治(三重県)
- ・エンディングノートの空欄をできるだけ記入 中村康浩(福岡県)
- ・終活を娘達が始めてくれましたが何故やら大変なことになっています 星 一子(神奈川県)

★住所録、年賀状の整理

- ・友人関係及びその他関係の住所録の整理 田野井一夫(栃木県)
- ・毎年ながら名簿の整理 青木涼子(埼玉県)
- ・息子の為の住所録作り(私の死を知らせる必要のある方々の一覧表) 仁藤ひろじ(埼玉県)
- ・義理年賀状発信の整理 長峰正晴(千葉県)
- ・長年の年賀状や名前のある書類関係などをシュレッダーで処分しています 松前邦広(千葉県)

★衣類の整理

- ・あまり着ない衣類の整理 大谷 茂(埼玉県)
- ・此れもまだ着れると思いい片づきません 清まさじ(静岡県)
- ・二、三年着ていない衣類をバザーなどで処分する 杉村美保子(岩手県)
- ・着物を少くすること 橋本良子(埼玉県)
- ・衣類を半分減らすこと 柳澤京子(宮城県)
- ・衣類の断捨離 金子範子(高知県)

★木、花の手入れ

- ・百寿の義母のいる妻の実家の松手入れ 井上静夫(栃木県)
- ・剪定なしで育った柿の木。高くなり過ぎた枝を切る 宇都木安子(東京都)
- ・君子蘭の植え替え 津布久信雄(東京都)
- ・剪定。樹木がおい繁り、筑波山の頂上が見えなくなった 合田浩子(茨城県)
- ・冬期間に取り込む花鉢が多くなりすぎて選択に迷っております 堀田寿美子(北海道)

★写真の整理

- ・思い出に浸ってばかりでなかなかかどらないので今年中に！ 高崎登喜子(東京都)
- ・写真データの整理。今年中、は努力目標のまま終わらそうです 小林七重(新潟県)
- ・家族との懐かしい写真の整理 池田 岬(埼玉県)



## ★趣味のものの整理

- ・習字、ちぎり絵、水墨画、墨絵の整理  
渡部美代子(山形県)
- ・体調を崩して辞めた篆刻、書道の道具、材料の整理  
木村誠一(神奈川県)
- ・布の整理。パッチワークが好きで作るより布を買う方が多いので  
山口嘉子(三重県)
- ・生け花の骨組デザインのためにコレクトした造型流木の山また山。これを地にかえさねば  
北野耕兵(千葉県)

## ★治療、検診

- ・人間ドック  
西條公雄(埼玉県)
- ・四月に発症したRS3PE症候群の治療  
黒澤正行(福島県)
- ・子どもの病を完治の方向へ  
福岡 悟(東京都)
- ・市の特定健診  
奥那於子(大阪府)
- ・歯の治療を今年中に終りたい  
小林恵子(大阪府)

## ★新聞のスクラップ

- ・振り返って見ると余り見てない。でも毎日切っている  
石原 岳(群馬県)
- ・新聞の切り抜き整理  
天野輝子(東京都)
- ・新聞の切抜き(俳句・旅・健康)の整理  
本庄準也(埼玉県)

## ★遺品整理

- ・五年目になる妻の遺品  
内河邦久(東京都)
- ・今春先立った妻の遺品整理  
近藤富夫(東京都)
- ・父の遺産の土地を処分したい  
吉里ひとみ(東京都)

## ★友人に会う

- ・しばらく会っていない友人と食事が見たい  
竹田満美子(静岡県)
- ・遠くを見ず一日一日元気に生きる  
原 崇雄(埼玉県)

## ★物置

- ・物置の物の処分  
鈴木義雄(福島県)
- ・物置きの中を整理し、捨てるものは捨てます  
鈴木岑夫(千葉県)

## ★お墓参り、掃除

- ・お墓と仏壇の掃除  
阿部澄江(宮城県)
- ・故郷を離れて半世紀、両親の墓参り  
上村元義(神奈川県)

## ★その他

- ・自分の納得する朱鷺の写真を撮りたい  
中川義彦(新潟県)
- ・総てにおいて身の廻りをスッキリしたい  
榎山とり子(東京都)
- ・恋の清算  
松田重信(埼玉県)
- ・写真集の刊行  
佐々木崇嗣(新潟県)
- ・この世に生きた出来事を自伝にして時々読み直すためにやっておきたい  
三津木俊幸(千葉県)
- ・物を探しやすいように物を少くしておく場所を動かさないようにしたい  
富樫和子(山形県)
- ・根室文学史の遺産(七回)の投稿  
早坂絃司(北海道)
- ・継続中ですが季語の暗記  
白戸麻奈(東京都)
- ・来年の農園カレンダーの作成  
吉村充治(埼玉県)
- ・スマホの取説を最初から読む  
松尾らん(東京都)
- ・保険証書、預貯金通帳などの整理と保管場所  
有田裕子(北海道)

- ・郷里の復興(熊本地震)と遺言の事まとめてゆきたい

日名子春実(群馬県)

- ・八月末クロが我家の一員となる。やんちゃで兄弟猫がビビッてるので十一月末に去勢をすること

濱崎祥子(鹿児島県)

- ・先日完成した夏目漱石記念館を見に行く、著作をもう一度読み返す事

関原幸子(東京都)

- ・身辺で起きている問題を解決してすっきりしたい  
高松玲子(埼玉県)
- ・八十五才にして今迄勉強していないこと、不足のこと多し、一生勉強です

津田忠彦(岡山県)

- ・お墓の建立と身辺整理

神 一男(静岡県)

- ・温古知新 vol.75からもういちど菜根譚を読み返してみようと思います

桑原謙一(群馬県)

- ・子供の使っていた部屋の片付け(秋に結婚し新しい生活を始めたので)

岩田 信(神奈川県)

- ・息子が残していった漫画本の処分

一瀬正子(埼玉県)

- ・一年に一度年賀状だけの友人との再会  
岩崎令子(大阪府)
- ・今年の出来事を振り返り来年の抱負にしたい  
久保壽雄(北海道)
- ・整理する物の順番を決めたい

間森 坦(兵庫県)

- ・本、レコード、カセットテープ、ビデオテープの整理

新井 賢(埼玉県)

今年整理したいことの中で一番多かった「俳句の整理」。新潟在住の「銀化」に所属する注目の若手俳人、織田亮太郎さんにその極意をお聞きしました。

### 「発表済みと未発表の区別を」

織田亮太郎さん



書きとめるにしろ、PC等でデータ化するにしろ、俳句の整理で重要なのは「既に発表済みの作品」と「未発表の作品」との区別だ。既に発表済みの作品は「発表済み」のマークを付けるなどして、他所へは出さないようにしておくが良い。

各種俳句賞、俳句大会でも「二重投句の禁止」、「未発表作品のみ受け付ける」というルールで行っているところは多い。「二重投句に当たるため入賞の取り消しといったことにならないように、日頃から気を付けておく必要がある。芭蕉の「文台引おるせば即反故也」という言葉もある。

また、未発表の作品も、宝の持ち腐れとなってしまう前に、何かしらの形で発表するのが望ましい。発表した分はまた新たに作るという精神で、「多作多捨」を続けることが上達の鍵となると思う。

10-11月号へお寄せいただいたお声の一部をご紹介します！皆様からのメッセージが、私どもスタッフの励みです。率直なご感想や親身なアドバイス、いつもありがとうございます。皆様のお声で、情報誌「喜怒哀楽」がつけられていきます。

- ・「菜根譚」を毎月たのしみにして居ります。穏やかに生き生きと過ごしたいと思いました。
- ・伊丹先生の句座のご様子、即時のお直しの確かな説明、勉強になりました。句座の皆様お倅せですね。
- ・フォトイックの提供者伊丹三樹彦さまのことを知りたいと思っていました。拝見し満面の笑顔とユーモアの超楽しさに拍手喝采。
- ・内藤明子さんのお人柄、お子さん達への「DNA」のつながり、感動。
- ・いろんな所に友人の名前や自分の名前を探して楽しんでいます。
- ・シンプルヨガ 参考になるので切り取って手帳にはさみどこでもできるようにしている。
- ・ドナルド・キーン氏が日本に帰化されたことを大変嬉しく思っていたので、氏のセンターが新潟に出来たことを知り、感動した。
- ・にいがた文化の記憶館だより。星新一の『祖父小金井良精の記』もう一度読み返したいと思いました。新潟は偉人が多いのでこの便りはとても勉強になります。
- ・食楽句楽 秋茄子を見る眼がかわりました。今後は秋茄子をじっくり丸のまま煮て冷やしておきます。
- ・「紙を、もっと紙を！」私の友人も紙コレクションをされていて、部屋に飾ったりひき出しに飾っています。夢が一杯ある“紙たち”貴重です。佐藤りえ様とても楽しく拝読いたしました。ありがとうございます。
- ・若松さんのしおりの言葉が心にしみました。職場のデスクマットにはさみました。

※今号へのお声も、ぜひお寄せください！

## 新潟ぶらり

### ◆ドナルド・キーン・センター 柏崎②

ドナルド・キーン・センター 柏崎では、キーン氏の「人となり」「作品・業績」「日本への思い」が映像や写真をはじめとする展示で分かりやすく紹介されている。なかでも目玉は「復元展示室」で、これはかつて氏がお住まいであったニューヨークの書斎と居間をそのまま再現している。まず目を引くのは壁一面の書棚。氏がこの部屋に来られると、それぞれの本についての思い出を話されるという。いずれも思い入れのある大切な本なのだ。所々抜けているのは、現在必要で手元に置いているから。

部屋には複数の絵が飾られているが、その一つをみて驚いた、蛇の絵だった。「先生は蛇、平気なんですね」と学芸員の方におききすると「先生は生き物を愛していらっしやいます。たとえば散歩をしていて鴨を見つければ、これは私の家族です」とおっしゃるんですよ。

キーン氏が戦後、日本人捕虜から託された手紙を何とかして家族に届けたという話、戦犯調査にいたまされなくなり除隊を申請した話を思い出した。

京都では男の友人を作らなかつた



書棚の前にある机で執筆がされていた。抽斗が表と裏についていてめづらしい。窓からはハドソン川の景色が。  
住所／新潟県柏崎市諏訪町10-17  
電／0257-28-5755 入館料500円  
月曜休館（祝日、振替休日の場合はその翌日）  
12/26～3/9は冬季休館

という谷崎潤一郎と親しくなったり、三島由紀夫とは「永久に話し続けられるような友」であったり（三島が亡くなる前にしたためた「小生の行動については全部わかつていただけ」と思い、何も申しません」という手紙が死後キーン氏に届いた。レプリカ展示）。安部公房はキーン氏の英訳に全幅の信頼をおき、司馬遼太郎には「戦友」と言わしめたという。皆みんな、キーン氏のことを好きだったのだ。

当センターについてキーン氏は「ドナルド・キーン・センター 柏崎」という名称の日本研究センター」と表現された。氏のこれまでの歩み、研究や著名作家とのつながりを知るとき、日本文化・文学は魅力にあふれたものなのだと感じる。そして何より、キーン氏へ感謝の気持ちで湧いてくる。

（菅真理子）

にいがた  
文化の記憶館  
便り(17)

少女人気を二分した

抒情画家・虹児と華宵

秋岡 啓子

大正から昭和にかけて流行した少女雑誌の表紙を飾った絵や口絵、挿絵のジャンルを「抒情画」といいます。テレビやインターネットのなかった時代、少女たちは「少女の友」「少女画報」「令女界」「少女倶楽部」といった数々の雑誌に夢中になりました。雑誌を選ぶうえで重要な要素の一つが、表紙や口絵を描いている画家で、彼女たちはお気に入り絵の絵を切り抜いてコレクションしていました。当時、その人気を二分していたのが高島華宵（1888～1966年、愛媛県宇和島市出身）と落谷虹児（1898～1979年、新潟県新発田市出身）でした。

「抒情画」と命名したのは、「花嫁人形」の詩人としても知られる虹児といわれています。主として可憐な女性が美しく描かれ、詩のように繊細でロマンチックな世界を表現するものです。その系譜を遡ると、竹久夢二（1884～1934年）に当たります。夢二は伝統的な美人画で描かれる細い目の女性でなく、つぶらな瞳の女性を新たに生みだして評判となりました。以降、虹児らと同時代の抒情画家には加藤まさを（1897～1977年）、須藤しげる（1898～1946年）、松本かつぢ（1904～1986年）などがおり、さらに戦後も活躍した中原淳一（1913～1983年）、内藤ルネ（1932～2007年）らが続きます。

女学生たちはそれぞれお気に入りの画家にちな

んで「虹児党」、「華宵党」、「まさを党」などと名乗り、ときには張り合っていたようです。大正末の雑誌に、ある画家のファンの女学生が別の画家のファンである級友の前で、その子の好きな画家の絵を燃やしたという過激なエピソードまで載っています。少女たちの熱中ぶりが伝わります。

ところで、夢見る乙女の憧れを描いた華宵と虹児ですが、その生い立ちそれぞれ異なります。華宵は小間物商と生糸商を営む家の三男に生まれ、高等小学校卒業後、14歳で画家を目指して上阪。京都市立美術工芸学校（現京都市立芸大）や関西美術院などで正規の美術教育を受けながらも画壇に属することなく、挿絵画家として独自の世界を築きました。華宵の絵が載るかどうかで雑誌の売り上げが左右されたり、流行歌「銀座行進曲」で「華宵好みの君も行く」と歌われたりと社会に影響を与えました。

一方、虹児は両親が10代のとき駆け落ちして生まれた子供で、12歳で母を亡くして一家離散するなど大変苦労しました。絵の才を認められ、奉公先の社長の勧めで14歳のとき同郷の日本画家・尾竹竹坡に弟子入りし上京。挿絵画家として名が売れた後、本格的画家を目指して留学したパリでもサロンで9度入選するなど実力派でした（パリの落谷虹児）に関しては本連載第5回で詳しく紹介しました。

にいがた文化の記憶館では、「落谷虹児生誕120年記念 少女人気を二分した抒情画家・虹児と華宵」を12月15日（金）から2月12日（月・祝）まで開催します。同じようなテーマを描きながらも、両者の描く少女像には違いがあります。ぜひご覧ください。



▶高島華宵「少女画報」表紙、昭和3年（個人蔵）



▶落谷虹児「少女画報」表紙、昭和8年（新発田市蔵）

【企画展示情報】

企画展示「落谷虹児生誕120年記念 少女人気を二分した抒情画家・虹児と華宵」

会期：12月15日（金）から2018年2月12日（月・祝）

休館日：月曜日（ただし1月8日、2月12日は開館）、12月28日～1月3日、1月9日

## 雪見酒を楽しむ

岩田 桂

ここ越後路は雪に埋もれた日々が長く続きます。そのような過酷な雪模様を見ながら、逆に雪見酒などと洒落込んでみたらどうだろうか。そうだそうだが、それがいいと、このペンを走らせています。

ところが越後塩澤(新潟県南魚沼郡塩澤町)の人、鈴木牧之著『北越雪譜』(一八三五)には、要約すると「雪が一尺以下の暖国の人々は、雪景色を喜び、絵や文章にして楽しむが、越後では毎年幾丈もの雪が降るので、雪のために力をつくし、財をついやし千辛万苦する」と書かれています。大雪の地方に住む人々の苦勞は、昔も現在も変わらないのです。だから雪見酒などを風流だとする人は大バカ者と言われます(異議なし)。

しかし初雪、ぼたん雪、細雪、淡雪、風花、春の雪、名残りの雪など、しんしんと降る雪を眺めながら地酒を楽しむのも至福の一時ですよ。

熱めの地酒をナミナミと注いでキユーツと一杯。雪の降るかすかな音を添えては、もう一杯。この辛口の酒が、うんうん、喉仏のあたりを刺しながら食道をまっしぐらに落下中。あ、今だ、五臓六腑にスルリと到着。熱爛がジワジワと身体に染み込んでゆくのがはつきりとわかる。

毛布を腰に纏いながら、しつぽり酌み交わすお酒。月光に青白く照らし出された雪明かりの中での酒。しんと静まった雪中でのお酒。寒と暖が交わるゆつたりと静かな時間は、まさに超スローな自分だけの人生の一里塚。まさにあの世の如しです(本当)。

### 飲んべえに生まれ悔ひなし雪見酒

そういえば日本には、雪月花と遊ぶという繊細な嗜みがあります。雪見、花見、月見の三見です。この場合に欠かれない相棒がお酒です。お酒と雪月花を対座させることにより、我らは自然界と一体化して、夢悠の境地に達する。これを風流と呼びます。すべては風の流れるように実体のない嗜みとも言えそうです。

なんとも風流なこの習慣は、あの紫式部も行ったと聞きます。平安時代に、紫式部も行ったと言われる雪見酒は、その名の通り、雪見の折りに飲む酒のこと。

これは、雪の降る日にあつたかいたつの中で、熱爛をチビチビやるのとはワケが違います。自然の風雪の中にくり出し、雪と戯れながら(寒さに凍えながら)楽しむのが醍醐味であり、「真の風流」なのだそうです(ドキッ)。人々は平安の頃には牛車を、江戸の頃には船などを出し、吹きさらしの野山や川で酔いしれたのだとか。まさに命がけの風流でした。

しかし現在では、花見酒や月見酒はともかく雪見酒はよほどの粋人、変わり者、もしくは耐寒性にズバ抜けた人でなければやらない嗜みです。だからやりましょう。例えば京都にも風流人たちが勧める雪見酒の名所があります。特に金閣寺の雪は涙がでるほどに美しい(本当です)。近年は滅多に雪が降らないから、見るチャンスは少ないが、あればタクシーを飛ばしてでも拝観すべき絶景です。



ただ立ち止まって茫然とするだけです。この世のものとは思えません。ワンカップの酒を立ち飲みするのを誰も咎めはしません(本当)。

### しろがねの雪降りやまず金閣寺

もちろん雪の降る処ならば、何処でも雪見酒の舞台になります。ここ越後にも多くの名所があります。萬代橋から角田山の遠景を眺めながらの雪見酒もお勧めの一つです。

ここで我流の「雪見酒がある光景」をレポートしておきましょう。

#### 1、鈍行の車中で飲む雪見酒

↓冬の日本海沿いを北に行く汽車で、雪景色を見ながらワンカップを飲む。肴は地元の手し物や駅弁がよい。まさに演歌の世界を楽しむ。日本人は何故か北を目指すのが好き。大好き。

#### 2、露天風呂で飲む雪見酒

↓小さな盥に熱爛をのせ、それをいただく。雪が髪に降り積もる。その雪が解けて頬を流れる。

まるで涙のように流れ落ちる。お酒は熱爛がいい。冷酒だと五臓六腑が驚き、深酔いする。ビールやワインでもいいが、やはり地酒がいい。この世の極楽です、これは最高です。

#### 3、竹林を見ながら飲む雪見酒

↓降り積もった竹林の雪を見ながら飲む。竹林の雪はすぐ落下する。それを「しずり雪」という。音を立てて静かに落ちる。その瞬間を楽しみながら飲む。雪見障子を開放して、竹林と一体になることが風流の極み。五感を研ぎ澄ました雪見酒である。

#### 4、山茶花の宿で飲む雪見酒

↓庭や垣根の山茶花に降り積もる雪を眺めながら飲む。山茶花の赤と雪の白さに究極の寒さを感じる。おもわず身震いする震撼さである。この場合は赤ワインがいい。冷えた心を赤ワインがゆつくりと温めてくれる。

#### 5、月夜の雪見酒

↓吹雪は突然止むことがある。そして寒月が煌々と雪の町を照らす。こんな時は、窓を全開して、部屋の明かりを消し、炬燵に足を入れながら湯煎のお酒を飲む。さすれば無間の淋しさと静寂がやって来る。酔いが回るほどにやがて、本当の自分が見えてくる。涅槃浄寂とはこのようなことか。実に心静かだ。毛布に包まれている自分が愛しい。

#### 6、雪にロウソクを立てて灯しながらの雪見酒

↓外は雪が降る。そんな時、大切な人と過ごす時間には、ロウソクの灯りを囲むといい。それも雪を詰めたグラスに立てたロウソクの灯りがいい。まさに幽玄の雪見酒です。

思いつくままに雪身酒の光景を挙げたが、雪見障子に映る影もまたロマンを駆り立てます。もしかしたら、それが雪女であったなら・・・と盃の手が震える。吹雪く夜は、雪女が赤子を求めてさ迷うと言います。その彼女と一献やれたら、ああ・・・その衝動はどうにも止まりません。

### ほろ酔ひの障子をよぎる雪女



## 市島三千雄生誕110周年記念講演会 「詩の色彩をさがすこと」開催

去る11月18日(土)、新潟出身の詩人市島三千雄の生誕110周年を記念する講演会「詩の色彩をさがすこと」が、新潟市の新潟大学駅南キャンパス「ときめいと」にて開催されました。

当日はあいにくのお天気でしたが、たくさんの方でにぎわっていました。

基調報告、詩の朗読、詩人の三角みづ紀氏による講演、三角氏と「市島三千雄を語り継ぐ会」の齋藤健一氏との対談と、活気のある講演会でした。



◀当社でお手伝した詩集

## みんなのエッセイ「わたしの初恋」 池田澄子様ご寄稿決定!!

自分の作品が「本」になる楽しさを味わっていたきたいという思いから企画した合同のエッセイ集。

2回目のテーマは「わたしの初恋」。前号でもお知らせしましたが、締め切りをクリスマス12月25日(月)まで延長しました。さらに俳人の池田澄子様のご寄稿が決定! 皆さまのエッセイとともに収録されます。この機会にぜひペンを執ってみてください。

※詳細は同封のチラシをご参照ください。



▲1回目の「わたしの母」

## 「喜怒哀楽」継続ご購入のお願い

今回は、来年からの「喜怒哀楽」更新のご案内が同封されている方が多い号です。ぜひ継続のうえ誌面を盛り立ててくださいようお願いいたします。継続特典もあります! また「こんな読み物があるよ!」ということで、お知り合いの方にご紹介ください。初回は無料にて送らせていただきます。



## 「2018年手帖」お送りしました 「ご縁ブック2017」12月中旬に発送予定です

お手元に届いていないという方は、お手数ですがご連絡ください。「2018年手帖」「ご縁ブック2017」とも、残部が若干数あります。お早めにお問い合わせください。



### スタッフの一言

Q. 今年中にしておきたいことは何ですか?

木戸 敦子



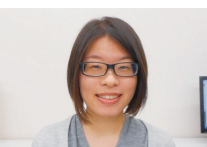
本棚の整理を進めていたが某B・Oで140円と50円也。労力とガソリン代の方が高くつく! と2回で頓挫。あとは友人と自宅で宴をしてこの一年を笑い飛ばそう!

古川 久美子



部屋の掃除かなあ。いい加減、捨ててもいい本とかもあろうに、なんとなく捨てられないのですよね。少しずつ片付けていこう……。

菅 真理子



さまざまな書類の整理。本や服も整理したい。食器類もあるなあ…。ブラウン管テレビの処分は、来年にやりそう。

山田 千秋



大掃除! 換気扇と冷蔵庫とあとフローリングのワックスがけです。一夜明けるだけなのに〜と毎年言いながらこの三点は必ずしないと年越せません。

木伏 美美恵



車の掃除、クローゼット・物置の整理、溜まった録画を見るか消すか…。いらぬ服を売っては買いで、逆に荷物は増えていく…。

上村 眞智子



年賀状を作成してポストに投函する! 庭のみかんを全部搾ぐ! 枯れたなすやピーマンを抜く、我家の枯れた人びとの右往左往を傍観する。

石山 由希子



10代20代の頃、若さの勢いで買った洋服や雑貨の数々。ほとんど袖も通さず取り出すこともないままうん10年。もういいでしょう。

吉田 瞳



不要な物を捨てて身も心もすっきり、はっきり、させたい! とりあえず水回りはピカピカにします。そして歯医者も行きたい。

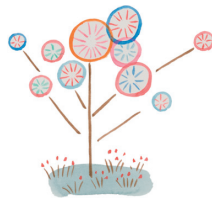
佐々木 祥子



そろそろ家中の年末大掃除を始めないと! と思いつつ、寒くて体が中々動きません。とりあえず服の整理からやっています。



スタッフの金子ゆり子は、2017年9月に退職をしました。皆さま、長い間お世話になりました。いまは「喜怒哀楽」読者として弊社を応援! 投稿作品でお目にかかる日がやってくるかも?



## 知らざあ言つて聞かせやしよう

佐藤りえ

今回が最後となった佐藤りえ様のエッセイ。3回にわたり多方面にわたる楽しき「リネワールド」を垣間見せていただきました。次回からの執筆者は、今年度の田中裕明賞を受賞した現在フランス・ニース在住の俳人です。乞うご期待！

年に一、二度ほどの参加ですが、句会に出るといいなあと思う瞬間があります。それは披露の際、句の作者が名乗りをあげる時。「○○です」と会場に響く声に、俳号つていいな、と思うのです。

本名で句作をされてる方ももちろんたくさんいるわけですが、俳号にはその人の考え方や嗜好、価値観がにじみでて、興味深いものがあります。

詩人の辻征夫の俳号は「貨物船」といいました。季節にとらわれず、ことさら色もなく、情に溺れず流されず、現実でありながら同時にマボロシでもあるような、人を食った感が素晴らしい、よい俳号だと思います。今年の角川俳句賞受賞者は「月野ぼほな」さん。半濁音を含んだかな書きの表記に、オノマトペのような響きもかわいらしい。54種の俳号を持ったことでも知られる正岡子規には「野暮流」「盗花」などという俳号もありました。作家・車谷長吉と夫婦ふたりだけの「駄木句会」をかさねた詩人・高橋順子の俳号は「泣魚」、三島由紀夫の青年期の俳号のひとつは「青城」、大橋巨泉は俳号「巨泉」を芸名にしてしまいました。どの俳号も音や文字のかさなりによって少しフシギな人物像を形作る、印象鮮明な面白さを感じます。

俳号は作家のペンネーム同様、名前のバリエーションともいえます。「名前」といえば、国産初のアニメーションを製作した下川凹天(くさかひん)という方がいます。漫画家、アニメー

ション作家として、これほどその仕事にふさわしいペンネームもない、好例のひとつと思います。

「名前」といえば、訳詞家に「漣健児(さざなみけんじ)」という方がいます。60年代に「可愛いベイビー」「ルイジアナ・ママ」「ヴァケーション」など数々の洋楽楽曲の訳詞を手懸けしました。その一風変わったペンネームは、時代の先駆者としての華やかさを表している名ともいえましょう。

「名前」といえば、泡坂妻夫の推理小説に「垂愛一郎(あらいちろう)」という主人公がいます。これは名探偵辞典の(アイウエオ順の)先頭に載ってほしい、という作者の願いから考えられた名前であるとか。ペンネームの「泡坂妻夫」じたいが本名「厚川昌男」のアナグラムでできているのです。

話を最初に戻しましょう。そうして句会に出た後、よっしゃ俳号を考えようと思っても、なかなかしっくりくる号は浮かんでこないものです。なにより「○○さん」と呼ばれて返事ができるのか、気づけるのか。その名前が「自分のもの」だと思えるのか。自己同一性を保てそうな俳号は容易には見つかりません。

日本に100人以上も同姓同名のひとがいるであろう超平凡な名前を持つ私にとって、少し変わった素敵な名前はあこがれです。いつの日か、句会の席で素敵な俳号を、声高らかに名乗ってみたいなあ、などと、今日もぼんやり夢想しています。

### ●プロフィール

1973年 宮城県仙台市生まれ。埼玉県在住。  
1997年 第9回宮城県短歌賞受賞。歌集に『フラジャイル』(風媒社)『What I meant to say.』(私家版)。

2017.12-1. vol.95 (2017年12月10日発行/隔月発行)  
●発行・印刷/株式会社ミュージズ・コーポレーション  
〒950-0801 新潟市東区津島屋7-29  
TEL 025-250-9555 FAX 025-250-9550  
株式会社ミュージズ・コーポレーション  
0120-819-395 Facebookもチェック  
e-mail odp@eseihon.com / HP http://www.eseihon.com  
郵便局口座番号00530-4-81370 口座名 株式会社 ミュージズ・コーポレーション

### 編集後記

思春期の頃、秋は感傷的な気持ちになったものですが、ここに来て人生の思秋期でしょうか。「今まで自分は何をしてきたのだろう」と浮かない気持ちが続いています。でも先日お会いした、昨年息子さんを亡くされた86歳のお客さまは変わらずに輝くような笑顔と行動力でした。今号5頁の金澤アイさんも病気を抱えつつ穏やかでにっこりと。あ〜中途半端に涙面を作ったおばさんとかかなり最悪だ！なりた自分とはかけ離れている。人生は短い。自分の顔に責任を持たないと。たくさん喜怒哀楽を積み重ねて少しでも全うな人間に。本年もご愛顧いただき誠にありがとうございました。(木戸敦子)